

## 乾杯！ 水産海洋学会創立50周年

平野敏行（東京大学名誉教授）

去る平成24（2012）年11月17日、東京大学伊藤国際学術研究センターで開催された水産海洋学会創立50周年記念大会で学会長から特別功績賞を頂いた。そして、引き続き行われた祝賀会では、乾杯の音頭をとるよう指名された。思えば、私は昭和37（1962）年春、水産海洋研究会を立ち上げた6人の委員の内、ただ一人の生き残りである。杯を手に、一言お許しを頂いた。

「50年前、水産海洋研究会を立ち上げたのは、宇田道隆先生、中井甚二郎先生、松江吉行先生、丸茂隆三先生、斉藤泰一先生それに私（平野敏行）の6人でした…」と言い始めた。水産海洋研究会の発足の経緯等については、水産海洋研究会会報第1号に詳しいので詳細は省略するが、当時、虎の門病院の南側にあった虎の門共済会館（現在は竹橋に移転している）のロビーに、この6人が毎週土曜の午後集まって、発足の準備や相談を熱心にやっていたことを思い出す。また、多くの水産や海洋関係の大小の企業や団体に宇田先生自ら賛助会員をお願いするため、趣意書を持って一つ一つ訪問され、頭を下げて回られた。「何でこんな偉い先生がこんなことを！」と、お供をしている若い私には忘れることができない強烈な印象であった。年会費

200円、会員数101人（私は102人だったと記憶しているが）で発足したばかりの水産海洋研究会である。賛助会員は大変なスポンサーであったに違いない。時代の移り変わりとはいえ、現在の賛助会員26に比べると、発足時から、私の知る限りでは、25周年時までは少なくとも、49という賛助会員の数であったと記憶している。

今回、創立50周年に当たり、日本水産学会と日本海洋学会の両学会の会長から、祝辞を頂いた。嬉しいことである。水産海洋学会ももう立派な学会になったということか。それにしても、水産海洋学会には、日本水産学会や日本海洋学会のように、「日本」という字が入っていない。お気づきだろうか。発足時に付け忘れたものではない。「水産海洋研究会は、世界で初めての学会。日本だけのものではない。世界の学会を目指す。敢えて“日本”はつけないことにしよう」というのが真相である。あれから50年。水産海洋学会の英文誌の引用は、関係学会のなかで群を抜いていると聞いている。「水産海洋学会の益々の発展と会員の皆さんのご活躍、ご健康を祈念して、創立50周年、世界の水産海洋学会に乾杯！」。

